

# 日々新聞

第九八号

東京内友新宿の内藤久良が娘のおまの  
親子本三郎に放逐者色へ離縁せしを恨み久良が  
世渡り益金明神の慶御札を賣る事と信  
より謝へ出たり久良親子色とを御別  
無程相済後おまの新宿の若荷屋  
堀坂とありしを  
本三郎と名深三再  
結を要縁の日毎  
深き泥水の死と迄  
云ふはともふの心  
うんばの本三郎ハ明治八年四月廿  
の夜二入連三ち天竜寺の境内へ行  
本三郎めくろみちおまの身置時  
ふれおまの衣を脱ぎ先へと及物を  
出し玉子まき仕律し紅を眼に塗り服切  
跡の苦いおまを誂し思ひ親を苦しめ  
本三郎の腹をこきおまの足に監金明神は  
おまの報ある其半拭けり事頭を私直に召捕り

花澤記

新改二代  
傷  
壺

ホリ忠治

